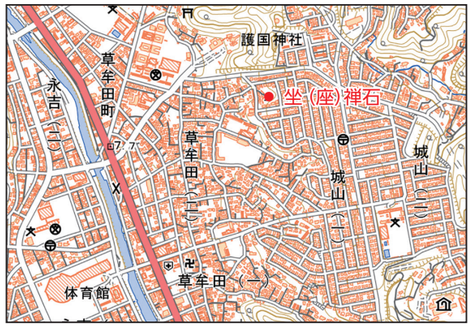
# 坐（座）禅石

記念物（史跡）
昭和 52 年 5 月 20 日指定
所在地：鹿児島市城山一丁目
所有者：鹿児島市




座禅石は、西郷隆盛や大久保利通等が誓光寺の無参和尚のもとで参禅した時に用いた石であると伝えられている。長さが約 2 m、幅が約 80cm の自然盤石である。

後年、西郷隆盛や大久保利通等が明治維新の偉業を成し遂げた素地は、無参和尚のもとにおける禅の修行によって形成されたといわれ、座禅石の側に昭和 2（1927）年 10 月に建てられている記念碑には、「無参禅師隠栖之地。南洲・甲東参禪之處。」と東郷平八郎の書で記されている。

碑文には、「西郷隆盛・大久保利通両先生、夙に大節を持して、身を国事に委ね、維新の風雲に際し、遂に回天の鴻業を翼賛せしは、不世出の天稟に因ると雖も、青年の時高僧無参和尚に参禅し、心性の修養に励みたるも亦、其大なる淵源たるべし、…中略　西郷大久保両先生亦親友吉井税所等の士と、比処に於いてその提撕を受け、後年活躍の素地を造る、実に偉人発祥の地となすべし、…後の此地を過ぐるもの感奮興起する所あれ。」とある。

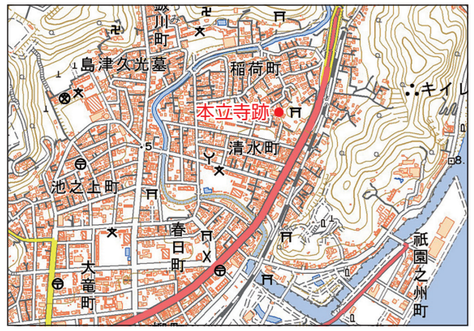
坐（座）禅石





# 本立寺跡

記念物（史跡）
平成元年 3 月 31 日指定
所在地：鹿児島市清水町
所有者：個人




本立寺跡は、初代島津忠久以来 5 代貞久に至るまでの 5 代の墓石塔等のある由緒ある古刹であった本立寺の跡で、藩政時代の寺域の一部を残している。

本立寺は、時宗に属する浄光明寺の末寺で、はじめ「五道院」と称していた。五道院とは島津家 5 代の法名が、得仏道（初代忠久）、道仏（2 代忠時）、道忍（3 代久経）、道義（4 代忠宗）、道鑑（5 代貞久）と、全てに「道」がつくところから後世名付けられたもので、19 代光久の時、論語の「本立而道生」の語から、本立寺と改められたと伝えられている。

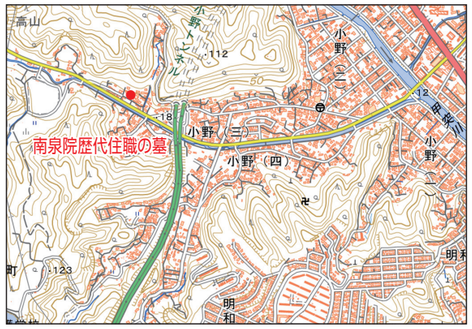
島津氏の根拠地は、はじめ山門院（出水地方）で、忠久以降 5 代の墓は出水郡野田町の感応寺にもあって、本立寺のものは 5 代の廟堂ともいうべきものである。

この寺は、18 代家久が宏壮な寺に改築し、20 代綱貴が重建し、さらに 21 代吉貴の時に境内を広めて寺門を再建している。

本立寺跡

# 南泉院歴代住職の墓

記念物（史跡）
平成元年３月31日指定
所在地：鹿児島市小野三丁目
所有者：個人




南泉院歴代住職の墓は、現在の照国神社の場所にあった天台宗の巨刹南泉院の歴代住職の墓石群である。

寛保３(1743)年没の開山偏詢周僧上の墓は一段高いところに、第２世から第11世までの墓は平地に整然と並んでいて、よく保存されている。

墓の形は、第１世から第９世までは無縫塔で、第10世は五輪塔、第11世は自然石塔である。墓地にはこの他に、地蔵尊石坐像や法華塔等もある。

江戸幕府の創始者徳川家康は、神格化されて東照宮に祭られたため、御三家や各諸大名がこれにならって東照宮を各地に建てた。

19代島津光久の時に、城の北側に建立された。21代吉貴の時に、当時は寺院の建立が禁じられていたため、東叡山公弁法親王に請うて、城の西側に、大雄山仏日寺南泉院の称号をもらって壮大な寺院を開山した。

寺領500石を給せられ、三州天台宗の触頭として藩内有数の巨刹となった。

歴代住職の墓が、ここ小野に葬られているのは、ここが南泉院領であったことによるのではないかと考えられている。

南泉院歴代住職の墓



# 心岳寺跡

記念物（史跡）
平成12年10月12日指定
所在地：鹿児島市吉野町
所有者：平松神社、個人、
株式会社島津興業、鹿児島県

心岳寺跡は、慶長４(1599)年、16代島津義久の創建で、義久の弟島津金吾歳久の菩提寺跡である。

歳久が、豊臣秀吉の命を受けた義久の追っ手により追い詰められ自害した所がこの心岳寺の地である。部下の殉死者は20数名いたという。歳久は56歳であった。７月18日の命日には「心岳寺参り」が行われ、三味線・鉦・太鼓の鳴り物入りのお参りで、鹿児島の年中行事の一つで、大変なにぎわいであった。

心岳寺は、明治２(1869)年、廃仏毀釈で廃寺となり、その跡地は平松神社となった。神社裏に歳久とその殉死者の石塔・心岳寺住職墓12基・龍頭水・手水鉢・仁王一体・石門等が残っている。

心岳寺跡

# 仏智山津友寺跡

記念物（史跡）
平成 17 年３月 31 日指定
所在地：鹿児島市西佐多町
所有者：鹿児島市

室町期、この地は応永 20（1413）年、福昌寺二世住持竹居正猷大和尚が開山した安寧山了心寺という吉田家 10 代若狭守清正の菩提寺であった。

その後、12 代島津忠治の墓が、島津曹洞宗三か寺の一つである津友寺に建てられた。『西藩野史』によれば忠治の母は、豊後（大分）の大友氏の出で、島津の津と大友の友を合わせて津友となったという。忠治の墓は、後に鹿児島の福昌寺に改装された。

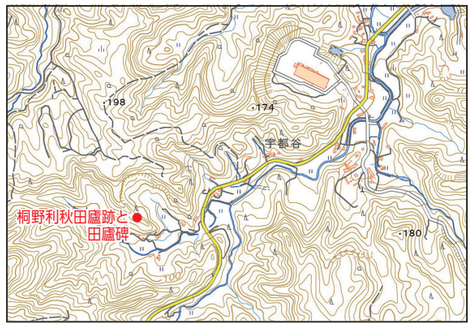
参道に、仁王石像胸部と正徳 6（1716）年、丙申四月八日と刻まれた石灯籠が残っている。

仏智山津友寺跡



# 桐野利秋田廬跡と田廬碑

記念物（史跡）
平成 17 年３月 31 日指定
所在地：鹿児島市本城町
所有者：個人



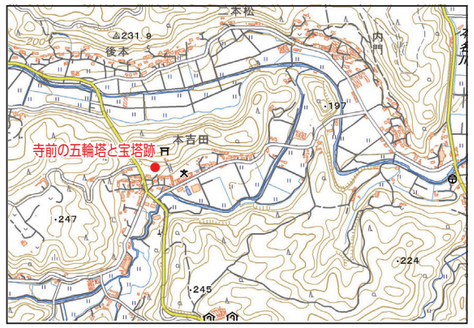

明治 6（1873）年、西郷に従って薩摩に帰った桐野利秋は、幼い頃世話になった山下孫兵衛を頼って宇都谷に来て、小屋に住み、開墾に励み、水田 4 反余（40a）、陸田（畠）5 反余（50a）を開墾して日を過ごした。

その時に住んだ小屋跡とその地に建立された碑である。その間、天下の志士たちも次々に訪れ、佐賀の乱の落人たちも保護している。

桐野利秋田廬跡と田廬碑

# 寺前の五輪塔と宝塔

記念物（史跡）
平成 17 年３月 31 日指定
所在地：鹿児島市本名町
所有者：本吉田公民館




五輪塔、宝塔、宝篋印塔十数基は、本吉田の西本願寺本名出張所入り口にある。

五輪塔は、『三国名勝図会』によると文和元（1352）年、自殺した吉田美作守清存の霊塔と伝えられている。この土地の人たちは、清存の御霊を吉田権現として崇め、それが若宮八幡の起こりであるとも言われている。

寺前の五輪塔と宝塔



# 島津義弘蟄居跡

記念物（史跡）
平成 17 年３月 31 日指定
所在地：鹿児島市桜島藤野町
所有者：個人

17 代島津義弘が関ヶ原の戦いの後、慶長 6（1601）年 4 月徳川氏に恭順の気持ちを表すために藤野に移り、2 か月ほど藤崎家に蟄居した。その宿所が、藤崎家第 11 代のときの屋敷である。

切妻型の屋根をもつ屋敷門は、古びてはいるが格式ある藤崎家の象徴として、昔のおもかげをとどめている。

島津義弘蟄居跡

# 沖小島砲台跡

記念物（史跡）
平成 17 年 3 月 31 日指定
所在地：鹿児島市桜島横山町
所有者：鹿児島市

文久 2（1862）年 8 月、生麦事件がおきた。文久 3（1863）年 6 月イギリス艦隊は、軍艦 7 隻で鹿児島湾谷山沖に現れた。イギリスの代理公使ニールや幕府は事件の解決を薩摩藩に求めたが、島津久光はこれに応じず、7 月 2 日に戦闘が始まった。

最初は、薩摩軍も奮闘したが、イギリス軍のアームストロング砲の威力はすさまじく、砲台はほとんど壊され、鹿児島の上町一帯は消失し、近代工場を備えた集成館も大きな被害を受けた。

桜島には、沖小島砲台の他に横山、赤水にも砲台が築かれた。

沖小島砲台跡



# 武　貝　塚

記念物（史跡）
平成 17 年 3 月 31 日指定
所在地：鹿児島市桜島武町
所有者：個人

武貝塚は、昭和 18（1943）年に鹿児島県史跡調査委員寺師見国が京都大学の梅原末治らと発掘調査を行っている。その後、昭和 19（1944）年、昭和 24（1949）年に京都大学文学部考古学教室が、昭和 63（1988）年、平成元（1989）年に京都大学防災研究所附属防災科学資料センターが発掘調査を実施している。

これらの発掘調査の結果、指宿式、市来式、鐘崎式、西平式等の縄文時代後期の土器が出土した。また、縄文人骨や腕輪、耳飾り、石斧、石鏃、漁具等の石器や軽石加工品、骨角器、多種多量の貝殻に混じってイルカ、サル、シカ等の獣骨も出土している。

武貝塚



市指定の文化財

# 仙寿院跡

記念物（史跡）
平成 17 年３月 31 日指定
所在地：鹿児島市入佐町
所有者：個人

仙寿院は、慶応２(1390)年に創建された伊集院妙円寺の末寺で、釈迦如来を本尊とし、愚丘妙智大和尚禅師を開山とする。初め大円庵とよんでいたが、後すたれ、36 代の大光和尚の時、地頭の許可を得て再興した。さらに、享保 20(1735)年、永吉の梅天寺の富山和尚を招いて中興した寺跡である。

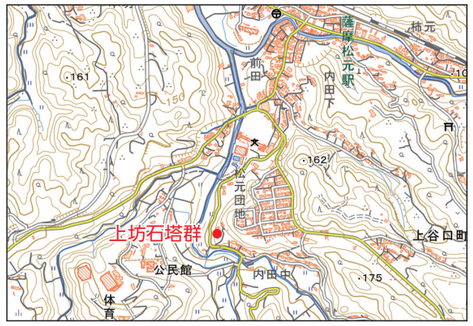
小石に妙法華経を一字ずつ書いて埋めた一字一石の塔や和尚の墓碑、無縫塔、観音像、灯籠が残っている。

仙寿院跡



# 上坊石塔群

記念物（史跡）
平成 17 年３月 31 日指定
所在地：鹿児島市上谷口町
所有者：個人




上坊石塔群は平安末期から南北朝期にかけての石塔群で、15 代島津貴久が建てた徳昌寺が廃寺になった後、上坊観音が建立され、その跡地に石塔と逆修塔が集められたものと考えられる。

一説では、鎌倉中期に一宇治城（日置市）を築き４代続いた紀氏と、奈良平安時代から鎌倉時代にかけて大隅国曽於郡・小河院（曽於市）で勢力をふるった税所氏に関係のある一族が、現世の安泰と来世の極楽往生や子孫繁栄を願い建立したものと伝えられている。

昭和 53(1978)年７月青年団や町の関係者が散乱したものや埋もれていた石塔を復元して今日に至っている。

上坊石塔群

# 町田家の墓

記念物（史跡）
平成 17 年 3 月 31 日指定
所在地：鹿児島市石谷町
所有者：個人

石谷領主町田氏累代の墓地であり、15 代梅久、17 代久徳をはじめ、22 代久東から 28 代久長（久成の父）まで家族を含め 22 基の墓がある。

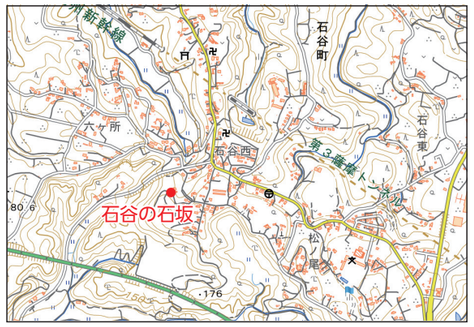
町田氏の祖先は、２代島津忠時の子常陸介忠経が元祖であるとされ、その権勢がしのばれる墓碑・石碑群である。

町田家の墓



# 石谷の石坂

記念物（史跡）
平成 17 年 3 月 31 日指定
所在地：鹿児島市石谷町
所有者：鹿児島市




江戸時代、石谷領主であった町田久成が、万延元（1860）年から文久元（1861）年まで伊集院の有馬新七を石谷奉行として招き、青少年教育にあたらせた。

その際、青少年指導の一環として、春山あたりから石を運搬させ、当時伊集院から鹿児島に通じるぬかるみのこの街道を石畳の道につくりあげた。石坂は、有馬と石を運んできた青少年たちとのきずなを伝えている。

石谷の石坂